

行田 歴史系譜 277

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

13

行田電話開通記念帖

行田市郷土博物館所蔵

明治23年（1890）、日本で最初の電話が東京・横浜両市内と両市間で開通しました。最初の契約者は東京で155人、横浜で42人だったそうです。電話の普及は通信手段を飛躍的に向上させましたが、地方都市で電話が開通するまでにはまだ時間を要しました。

明治39年（1906）、忍町商工会長今津徳之助は深谷や本庄で公衆電話開設の動きがあるのを知り、東京郵便局管理課に出頭して忍町での電話開設の照会をしました。また、忍町の青柳常吉と千代田徳次郎も特設電話の設置を計画し、有志を募っていました。そこで今津と青柳、千代田は提携し45人の賛同者を得て、特設電話開設の準備を進めました。



行田電話開通記念帖

特設電話制度は明治35年に始まった制度で、電話の設備や維持費を加入者が負担し、後日普通電話に切り替える際にはこれらを全て国に寄付するというものでした。今津らは明治41年10月に電話敷設費用として2千300円に相当する電話工事用物件の寄付と、その購買供給の委託を通信省に出願し承諾を得ました。

敷設工事は明治42年2月から始まり、3月1日に通話が始まりました。電話を通話先へつなぐ電話交換室は行田郵便局に置かれました。最初の加入口数は47件でしたが電話が開通するとその利便さから加入希望者が続出し、明治44年12月には125件まで増加しました。写真の資料は明治45年2月に行われた電話開通式にあたり作成された記念誌です。電話開設の経緯や通話料、加入者の電話番号も掲載されており、0番と1番は行田郵便局、忍商業銀行が35番、忍町警察が42番、忍町役場が79番となっています。

大正元年（1912）に行田足袋の生産量は1千万足を超えますが、電話の開通は商業取引の利便性も大きく向上させ、忍町の発展に大きく寄与しました。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

特定非営利活動法人 子育てネット行田

平成12年の発足以来、「地域ぐるみの子育て」を目指してさまざまな子育て支援を展開しているのが「特定非営利活動法人子育てネット行田」です。

現在の会員（正・賛助）は53人で、就学前の子どもとその親を対象とした「子育てサロン（年9回開催）」を中心に活動。会員は歌や手遊び、読み聞かせなどを披露したり、子育て相談に乗ったりとそれぞれの得意分野を生かし、参加した親子が笑顔になれる居場所づくりをしています。他にも、子育て支援センター「きっずプラザあおい」「つどいの広場（市内4カ所）」の運営受託や、小学4～6年生を対象に学びの機会を提供する「子ども大学ぎょうだ」のサポートなど、幅広く活躍しています。

また、同法人では、県などが開催する子育て支援についての研修にも積極的に参加しており、学んだことを活動に反映することで地域へと還元していけるよう、心掛けているそうです。これからも子育て世帯の心強い味方として、子どもの成長をともに見守ってくださることでしょう。

【代表理事】島田 ユミ子 【電話番号】556-7765

つながる ひろがる みんなの子カラ

～市民公益活動団体紹介～④



2月21日に開催された「第8回子育てサロン おひなさまをつくろう」の様子

今月の表紙

2月18日、行田グリーンアリーナで「第27回彩の国21世紀郷土かるた北埼玉支部大会」が開催されました。

埼玉県と北埼玉支部の子ども会が主催した今大会に、本市の他羽生市・加須市から小学生92人が参加。張り詰めた空気が漂う中読み札が読まれると、選手たちの「はい」という声会場内に響き渡り、白熱した戦いが繰り広げられました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をデジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています